

ニュースレター

# 山りおもての森から

林野庁 九州森林管理局  
西表森林環境保全ふれあいセンター  
平成19年12月発行 NO:10号



初冬を彩るサキシマフヨウ

## 船浦中学校の「テドゥ山登山」を支援

11月25日(日)に、船浦中学校の学校行事である「テドゥ山登山」が実施されました。

当センターでは、事前下見として12日に下山地点となるマーレ川方向からテドゥ山までの登山道の雑草刈払い及び倒木処理などの整備を実施しました。下見の日は天候も良く、大汗をかきながら5時間をかけて事前準備を行い、本番の登山に備えました。



山頂を目指して



登山開始

登山当日は、あいにくの小雨模様、遠くフィリピン近くには不穏な動きの台風23号と24号がありました。午前7時30分に中学校で結団式を終え、総勢53名(うち中学生は24名)は浦内川乗船場へ移動し、そこから船で30分の登山口へ到着しました。

登山を開始してまもなく雨が降り出し、大変な登山の幕開けとなりました。テドゥ山は標高441mですが、ほぼ0mからの登山のため急登坂が続きます。加えて、雨のため登山道が滑りやすく、ロープを張り安全に配慮しながらの登山となり、予定時間を大幅に超過し12時30分の山頂到着となりました。



山頂で記念写真の中学生

当日の西表島の海岸部は25度の気温ながら、テドゥ山頂は吐く息が白くなるほどの寒さとなり、生徒たちは体験したことのない寒さにブルブルと身をもだえ、歓喜の声をあげながら立ったままでの食事となりました。



雨でブルブルの昼食

今回のテドゥ山登山の行程は、ほぼ西表島横断に匹敵し、疲れた身体での下山となることから、熟練した先導者のもとで予定時間2時間30分のところ、慎重の上にも慎重に3時間30分かけての下山となりました。

船浦中学校に到着すると待機されていた多くの家族の歓迎を受け、関係者一同は大盛り上がりの中で解団式を終えました。



歓迎する家族

テドゥ山は、竹富(ティドゥン)が語源で、竹富島の入会山として利用されていた。

## JICA研修生11名が亜熱帯森林の生態系学習のため西表島に来島

11月5日(月)、西表島の生態系を学習するため、JICA研修生11名と引率及び通訳の2名の訪問を受けました。

一行は、事前学習として西表島の位置、社会環境及び森林生態系などについて概要を説明し、質疑を受けました。



ヒマングローブ林の観察

翌日は、西表島の仲間川をボートで遡上しながら、西表島を代表するマングローブ林の分布及び生態について学習しました。研修生の多くが海外の内陸部から参加していることもあり、仲間川中流ではサキシマスオウノキの板根に目を見張り、またマングローブの特異な樹形に感動していました。

その後、大富遊歩道では、恐竜時代を感じさせる樹種に所々立ち止まりながらの学習、また、南風見林木遺伝資源保存林のリュウキュウパインの施業及び南風見田の浜海岸保安林の防潮効果に興味を示すなど、盛沢山の研修内容ながら一生懸命に学習する姿が見られました。



海岸防潮林

最後に、海がない国から参加した研修生は、バスの出発時間ぎりぎりまで亜熱帯珊瑚礁の海岸で散策を楽しんでいました。

最後に、海がない国から参加した研修生は、バスの出発時間ぎりぎりまで亜熱帯珊瑚礁の海岸で散策を楽しんでいました。

最後に、海がない国から参加した研修生は、バスの出発時間ぎりぎりまで亜熱帯珊瑚礁の海岸で散策を楽しんでいました。



座学の研修生



巨樹・巨木百選サキシマスオウノキでの研修生

## 「平成19年度沖縄における環境保全型観光促進事業」 第2回現地意見交換会

11月7日(水)、環境保全型観光促進事業における意見交換会が、西表島の仲間川において、竹富町役場、西表島エコツーリズム協会及び地元などが主体となり開催されました。

この意見交換会は、仲間川の環境保全に資するため環境把握を目的としたものです。今回は干潟でのカニ類の分布状況、鳥類の観察及びマングローブ林や河川でのモニタリングのあり方等について質疑が行われ、参加者から活発な意見が出されました。



マングローブ林の被害

## 平成19年度ヒナイ川利用状況調査(11月分)報告

11月14日(水)、11月期のヒナイ川利用状況調査を実施しました。

今月の実績は、ツアー8組、33名(ガイド8名含む)で、ツアー客は全員県外からでした。

なお、ツアー客に対して「西表島来島の目的」について聞き取りを行ったところ、「西表島の自然を求めて」が大多数でした。この外に、「マングローブを見るため」、「のんびりしたい」、「現実からの逃避」などの貴重な回答を得ました。

また、10月の台風15号により、ヒナイ川船着き場に自生しているサキシマスオウノキの板根に亀裂が入っていました。



ヒナイ川を遡航するカヌー

## 森の巨人たち百選サキシマスオウノキ(仲間川)

### モニタリング11月調査を実施

西表島の生態系を代表する植物で最大を誇る仲間川のサキシマスオウノキを保全・管理するモニタリングを、11月20日(火)に半年ぶり実施しました。



当日は雨ながらも、このサキシマスオウノキを目当てに訪れる数百人におよぶ観覧の合間をぬって、樹勢を判読するための開空度などの調査を行いました。調査に当たっては雨に加えて顔面に群がる蚊を追い払いながらの作業となりました。

それでも、サキシマスオウノキを訪れる人々から、「林野庁はこんな保全活動を行っているとは知らなかった。」との声に励まされました。

### 仲間川マングローブ林モニタリングの平成19年10月調査を支援

仲間川地区保全利用協定の締結者が実施するマングローブ林のモニタリング調査を、当センター職員が支援し、10月18日(木)実施しました。

西表島は、9月の12号及び10月の15号と最大瞬間風速が60mを越す強い台風が吹き荒れました。この影響に伴い仲間川のマングローブ林も倒木や風倒木の移動するなど、河川地盤の変動が見られました。

当日は、台風で破損した調査ポイントの固定点を修復しながら、倒木の間をぬって調査を実施しました。



### ソウシジュ(外来種)萌芽繁殖抑制試験の経過報告

当センターでは、西表島に本来生育等していない外来樹木について繁殖抑制試験を実施しています。対象樹種は、侵略度が高く在来種への影響も大きいギンネムとソウシジュの2樹種です。



今回は、島内西部におけるソウシジュの繁殖抑制試験地の調査経過を報告します。

平成18年7月に試験のために伐採したソウシジュ根株(林齢約60年)に対して、10月にマルチング処理区(ゴムシート)、無処理区の、2つの試験区を設定しました。

調査開始時の林内状況は、平成18年9月の台風13号(西表島:最大瞬間風速69m)の影響もあり、調査対象根株の隣接木は枝葉の飛散・倒木・幹折れ被害が顕著で、調査根株上の開空度は殆どの箇所全開若しくは高い傾向にありました。

平成18年10月(伐採3ヶ月後)時点の萌芽発生状況は、マルチング処理は全35株(根株径2~73cm)全てが発生なし。一方、無処理株の発生状況は、全71株中20株(28%)の発生が見られ、その中でも根株径21~40cmでは41株中15株と発生頻度が高い傾向にありました。



1年経過した平成19年10月期(伐採1年3ヶ月後)の試験地の状況は、萌芽発生株(初期段階20株と新規発生株を含む)を放置株と萌芽除去株に分け経過観測を行った結果、残ったのは1株の放置株(他の放置株は自然枯死)のみとなりました。



中間とりまとめとして、

現段階ではマルチングを行えば萌芽の抑制効果は高いものと期待される、

たとえ根株の上部自体が駆逐しても、地下部に残留養分があれば残根からの発芽の可能性がある、

今後いかに発芽を抑制し、光合成による地下根への新たな養分供給を阻止し、枯渇へ誘導することが最重要である、との考え方を持っています。

## 西表島の樹木

今回は、汽水域に生育する植物を掲載します。

**オヒルギ**(*Bruguiera gymnorrhiza*) 別名：アカバナヒルギ、ベニガクヒルギ  
科：ヒルギ科 *Rhizophoraceae* 属：オヒルギ属 *Bruguiera*

分布は、奄美大島以南の琉球列島から東南アジアの熱帯を中心に、台湾・中国大陸南部・オーストラリア・アフリカ・大平洋諸島などに広く分布する。オヒルギは、汽水域に成立するマングローブ林(日本では7種)の代表的樹種の1つである。

形態は、高さ約10m、熱帯では高さ20m以上になる常緑の高木で、樹幹にたくさんの皮目がある。

葉は、長楕円形で先端が尖り、葉の基部もややくさび形で、塩分を含んだ水に生育するため厚く内部に多量の塩分を含んでいる。

根は、泥中からボコボコと膝に似た屈曲した気根である膝根(しっこん)を出す。

花は、形がおもしろく、タコの風船あるいはお弁当のウイナーソーセージを連想させる赤く色づいた顎(通称オヒルギのことを「アカバナヒルギ」と呼ぶのはこれによる。)に、花弁は淡黄白色の花である。

種子は、マングローブの特徴の一種でもある胎生種子(木に付いたまま果実の中で発芽)で、長さ15~20cmの棍棒状の長い胚軸をのばす。従って、種子ではなく苗で繁殖するのである。

かつては、樹皮から染料が採取されていた。



西表島のマングローブ林



オヒルギ



オヒルギの膝根



オヒルギの花



胎生種子

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>